

詩編 130 : 1~8

ルカによる福音書 11 : 4

「罪を赦してください」

<難しい祈り？>

イエスさまが、弟子たちに、わたしたちに、「主の祈り」を教えてくださいました。その祈りの内容を、毎週一つずつ聞いています。

今日のところは、「わたしたちの罪を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を／皆赦しますから。」というところです。わたしたちが普段礼拝や、あるいは家庭で祈っている「主の祈り」の言葉では、「我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく／我らの罪をもゆるしたまえ」となっています。

さて、この祈りの部分に差し掛かった時、わたしたちは、ちょっと気持ち、声が小さくなってしまっているのではないのでしょうか。

「我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく／我らの罪をもゆるしたまえ」。

そのまま読むと、わたしたちが、自分に対して罪をおかす者をゆるすように、神さま、あなたもわたしたちの罪をゆるしてください、という意味に聞こえます。

わたしたちは、自分に対して罪をおかした人をゆるすような人間にならなければ、神さまにゆるしていただけないのでしょうか。人に対して良くすることができる、立派な人間になれば、神さまがわたしたちも、ゆるして下さいというのでしょうか。

わたしたちにとって、自分に罪をおかす者を赦すことは、とっても難しいことです。自分を傷つけた。自分に損をさせた。自分のものを奪った。人間の心理としては、そんなことされたら、ゆるせない。むしろ、相手に何倍にもして返してやりたい。相手も自分と同じか、それ以上に嫌な思いをすればいいと思うし、怒りをぶつけて、憎しみをぶつけて、破滅させたいと願いたくなる。あるいは、顔も見たくないと一切の関わりを絶ち、相手の存在を無かったことのようにする。そんな風になるのが、実は、わたしたち人間誰しもが奥底に持っている心のように思います。

その思いを押さえること。そんな中で、相手のために、罪をゆるすということ。そんなことを求められたら、わたしたちは途方に暮れ、俯いてしまいます。わたしたちは、自分にそれが出来ないことを、よく知っているのです。

しかし、この祈りは、わたしたちが自分に罪をおかした人を赦せば、神さまがわたしたちの罪を赦して下さい、と条件を言っているではありません。

意味としては、基本的に聖書の言葉の順番が正しいのです。まず最初に、「わたしたちの

罪を赦してください。」と祈る。これが、この祈りの中心です。

そして、わたしたちがこの祈りを祈る時の、胸のひっかかりや、戸惑い、ためらい。それはまさに、この「わたしたちも自分に負い目のある人を／皆赦しますから」という祈りによって、人の罪をゆるすことのできない、自分の弱さ、自分の罪を、はっきりと見つめさせられるからです。

わたしたちは、まずこの自分の罪を見つめる必要があります。神さまの御心に従うことが出来ない罪。神さまを愛することが出来ない、隣人を愛することが出来ない罪。怒りや憎しみに捕らえられ、破壊を心に思う罪。

この、自分ではどうすることも出来ない罪を、自分が確かに抱えていることを、わたしたちは「主の祈り」を祈るたびに、明らかにされるのです。

<イエスさまに赦されていること>

しかし、そうして祈りによって自分の罪に向き合わされる時、わたしたちはまた、この祈りを教えて下さったのが、イエスさまであることを思い起こさなければなりません。

イエスさまが、御自分の弟子たちに。選ばれ、招かれ、共に生きる者とされた弟子たちに、一言一言、口移しで教えられた祈りであることを、思い出さなければなりません。

イエスさまが、言われたのです。「あなたたちは、こう祈りなさい。『わたしたちの罪を赦してください』。そう、求めなさい。そして、その祈りはわたしが実現しよう。わたしがあなたの罪をすべて引き受け、十字架に架かって死のう。わたしの命をあなたに与えよう。あなたに罪の赦しを得させよう。だから、あなたたちは祈りなさい。『わたしたちの罪を赦してください』と祈りなさい。」

わたしたちは、主の祈りを祈る時、まさにイエスさまの御前に立っています。わたしの罪の赦しのために、十字架に架かって下さったイエスさまの下で祈っています。

どうにもならない自分の罪。心から湧き上がる悪い思い。ゆるせない心。怒り。憎しみ。相手を破壊してやりたいと思ってしまう思い。それらすべてを、わたしたちは祈りによって、イエスさまの許へ携えて行くのです。

そして、わたしたちのこの思いをイエスさまが、すべて引き受け、受け止めて下さるので。わたしたちの罪と滅びの死を、御自分のものとして下さり、苦しみや悲しみを受け止めて下さり、それをすべて背負って十字架に架かって下さるのです。そうやって、イエスさまは、わたしたちを罪から解放して下さいます。

イエスさまが十字架の上で祈られた祈り。それは、「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」という祈りでした。自分ではどうしようもない、わたしたちの罪の赦しを、この方が祈って下さり、この方が実現して下さいます。

そして、わたしたちは天の父なる神さまが、イエスさまによってわたしたちの罪を赦し、神の子として受け入れ、見つめて下さっていることを知らされたのです。

わたしたちの罪は、もう赦されています。神さまに背いた罪も。隣人を愛せない、赦せない罪も。イエスさまの十字架によって。神さまの愛と、憐れみによって。神さまに逆らい、怒らせ、背いたわたしたちを、神さまはそれでも愛して下さり、忍耐して下さり、罪の赦しのために、御子の命を与えて下さったのです。

本来、わたしたちは、神さまに対する罪によって、怒りを受け、裁かれ、滅ぼされるはずの者であったのに、そのようにして、わたしたちは神さまに赦され、愛され、生かされているのです。

神の力によらなければ、わたしたちの罪は赦されることはありません。そしてまた、この神の力によって赦され、生かされた者でなければ、本当に人を赦す者になることは出来ないのです。

今、この「主の祈り」を祈る者は、イエスさまに出会った者として、イエスさまに招かれた者として、イエスさまに愛され、救われ、罪を赦された者として、この祈りを祈るのです。

神さまが、怒りではなく、愛を与えて下さった。罰ではなく、赦しを与えて下さった。滅びではなく、命を与えて下さった。この恵みを知っている者が、「主の祈り」を祈るのです。

神さまが、そこまでして、わたしたちが神さまの恵みの中で生きる者となることを望んで下さった。そのために、罪を赦して下さった。憐れんで下さった。だから、あなたたちは、神さまの心を思って生きなさい。相手を赦す者に、相手を憐れむ者に、相手を生かそうとする者になりなさい。そう、神さまは望んでおられるのです。

#### <人を赦すこと>

しかし、わたしたちはそのことも、神さまの力によらなければ何もできません。

だから、わたしたちは、自分がそのように生きる者となることを、祈り求めるのです。

「わたしたちの罪を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を／皆赦しますから。」

わたしたちの罪を赦して下さった神さまは、わたしたちが隣人に対して、憎しみや、怒りや、恨みや、滅びの思いをもって接するのではなく、愛や、憐れみや、赦しや、命をもって接することを望んでおられます。

そして神さまは、わたしに罪を犯した者にも、赦しを与えようとしておられます。その人が悔い改め、神さまの愛と赦しに生きることを望んでおられます。イエスさまは、わたしのために十字架に架かれたように、その人のためにも十字架に架かれます。

わたしたちは、この神の赦しの中でなければ、イエスさまの十字架がなければ、本当に互いに愛し合うこと、赦し合うことは出来ません。共に、神さまの愛の中に立つこと。共に、イエスさまの十字架の前に立つこと。今、そのように出来ないとしても、だからこそ、祈り求めていくことが必要なのです。

人を赦すこと、愛すること、憐れむことは、わたしたちの努力や、我慢で出来ることでは

ありません。口では「あなたをゆるそう」と言っても、心では赦していないなら、何の意味もありません。

だから、わたしたちは、自分の心に任せて、相手を赦さず、憎み、怒り、滅ぼそうとするのではなく、神さまの御心に任せて、神さまの罪の赦しの恵みによって、相手が神さまの愛に生きることを願う、その心が与えられるように、寄り縋って、しがみついて、祈るのです。

自分に罪をおかした者をゆるすことは、妥協することや、悪事を見て見ぬふりをすることや、泣き寝入りすることとは違うでしょう。そうではなくて、相手が、神さまのもとで、イエスさまの十字架の下で生きることを願うこと。相手が悔い改めの心を与えられ、神さまの罪の赦しに立ち、神さまを愛し、人を愛する者になることを、祈ることだと思います。イエスさまの祈りを、「父よ、彼らをお赦してください」との祈りを、イエスさまと共に、心から祈る者になることだと思います。

それは、わたしたちにとって、本当に難しく、辛く、苦しいことです。

しかし、その時わたしたちは、まさに神さまがそれ以上に、わたしのために、難しく、辛く、苦しいことを引き受けて下さったことを、身をもって知るのであります。わたしのために、イエスさまの十字架の苦しみが、痛みが、叫びが、祈りがあったことを思うのです。誰かの罪を赦そうとする痛みを感じる時、祈りの辛さを味わう時、わたしたちは、イエスさまの十字架の苦しみに、ほんの少し、共にあずかろうとしているのです。だからこそ、これは、イエスさまの罪の赦しに生きる者に与えられた祈りなのです。

わたしたちがそのようにして、日常の日々を、祈りつつ、神さまの御心に従って生きようとする時。隣人を愛そうとし、赦そうとし、共に生きようとし祈り求めながら歩む時。わたしたちは、そこで働いて下さる神さまの導きと助けを具体的に体験し、その恵みをますます深く知っていくことになるでしょう。祈るならば、求めるならば、神さまの力によって、わたしたちは新しく変えられていくのです。

#### <毎日の祈り>

ですから、わたしたちは、この祈りを毎日、祈る必要があります。

この、罪の赦しに関する祈りの前は、「わたしたちに必要な糧を毎日与えてください」という祈りでした。原文のギリシア語では、次の文章が始まる前に、文章と文章をつなぐ「そして」という言葉が入っています。

わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。「そして、」わたしたちの罪を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を／皆赦しますから。

わたしたちは、今日を生きるために、食べ物が必要です。そして、それと全く同じように、わたしたちは今日を生きるために、神さまの赦しを必要としているのです。毎日、わたしたちは、神さまの赦しによって生かされています。このことを、毎日、見つめるのです。自分

の罪を見つめ、罪の赦しを見つめ、神さまの愛と憐れみを見つめるのです。ここで、生かされている。この赦しの中で、今日も生きることが出来る。この恵みを、祈ることを通してはっきりと見つめ、そして、受け取り、そして、新たな信仰の力をいただくのです。

わたしたちは日々、「主の祈り」を祈りつつ歩みます。そして、主の日に、礼拝に帰ってきます。礼拝では、御言葉によって、聖礼典によって、力強く父なる神さまの罪の赦しの宣言を聞き、イエスさまの十字架の救いの確かさを味わい、聖霊によって新しくされます。そしてまた、新しい一週間を歩み出し、日々祈っていくのです。

わたしたちには、イエスさまから、祈りの言葉が与えられています。「わたしたちの罪を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を／皆赦しますから。」

わたしたちは赦されています。そして、赦しに生きる者とされているのです。

### 【お祈り】

天の父なる神さま

「主の祈り」を教えて下さったイエスさまご自身が、あなたの救いのご計画を実現して下さいます。「わたしたちの罪を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を／皆赦しますから。」この祈りを与えて下さり、ありがとうございます。わたしたちの罪を赦して下さい、ありがとうございます。

日々、与えられた罪の赦しを忘れることがありませんように。そして、わたしたちが赦す者となることを、神さまが望んで下さっていることを、感謝することが出来ますように。

わたしたちは、ただただ、十字架の御前に立ち尽くすばかりですが、そこにこそ神さまの愛と、罪の赦しが、明らかにされています。どうか、イエスさまの御前で、赦されたわたしたちもまた、赦す者、祈る者となることが出来ますように。

今日からアドベントが始まります。わたしたちの罪のために世に下って下さったイエスさまを覚えます。悔い改めと、感謝と、救いの喜びを強くしつつ、日々を歩ませて下さい。そして、世の一人でも多くの方が、神さまの愛を知り、イエスさまの罪の赦しを知り、その恵みに生きる者となることが出来ますように。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン